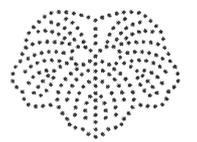


「リゅうま伝」は高野の分身がお客様のとうへご挨拶に伺う。とう氣持でお届けしています。



リゅうま伝

22号

2021年9月25日
高野 竜馬

「インターステラール」
若かりし頃、「神様や仏様には頼らぬえ」なんて釋が、て神社仏閣を避け続けた私も世間の厳しさにもまれ、今では少いながらもご利益にあやかゆるものならと足繁くお参りする高野です。
「それとね、高野さん、お願い事するなら神社はダメだよ。だってウチの近くの宇佐八幡なんて年間150万人がお願いに来るんだからさ、おっは競争率低いのはご先祖様よ！なんだ、て親は2人しかいないんだから、お願い事するならお墓参りね！なんて、ことを大分の知人から聞いて妙に納得したのも一因です。
さて、皆様はお彼岸の、この季節、いかがお過ごしでしょうか？

自己中心的で、信心浅い私でさえご先祖様だとか死後の世界を考えるくらいですから、良識ある皆様には大いに関心あるテーマではないでしょうか？
という訳で今回は、お彼岸にピッタリの映画「インターステラール」をご紹介します。
異常気象(巨大砂嵐)が頻発し、疫病が感染拡大する地球。そんな滅亡の危機から人類を救うため宇宙へ放立つ宇宙飛行士クーパーと彼の帰還を待ち続ける娘マーフの近未来SF映画です。
実は、この映画、難解な物理学やキリスト教をベースにしていて一回見ただけでは、とても理解できない深いお話です。ただ、私には「死後の世界」を描いているように見えて、興味深い作品です。

地球上と宇宙では時間の進め方が違うという相対性理論を使って、父と娘がビデオメッセージを交換するシーンは、彼岸(あの世)と此岸(この世)で、交信しているように感じます。
もしかしたら、私達の大切な故人は、こんな風に私達の生き様を日々見てるのかな？、と感じるのです。
生死の境は馱の改札のようなもので、改札超えると姿形がなくなつて霊だけになり、時空を超えて、いつでも身近にいるのではないかと...。
そしてその霊が私達に氣配を伝えるために超常現象を起こしているのだとしたら、墓参りがご利益をもたらすことにも合点がいきます。
さて、この映画、クーパーとアメリカ博士(ヒロイン)の恋愛映画と見ても味わいがあります。
アメリカは生き別れた赤人と会うために、クーパーは娘達と移住できる惑星を見つげるために宇宙探検を続けます。

「10年も会ってない人に銀河を超えて引き寄せられている。おそらくもう死んでいる人に。愛は私たちにも感知できる。時間もお互い超えるの。愛が未知の力でも信じて良」と思う。
秋の夜長、ご先祖様や大切な故人を思い浮かべながら、鑑賞するのはいかがでしょうか。
コロナ禍の今だからこそ、「死生観」を見つめ直すきっかけは幸いです。
感謝の印



たかの財形事務所
〒819-0374 福岡市西区千里 707-13
☎090-3407-2123
<https://www.takanozaikei.com> メール fp.takano@gmail.com

「リゅうま伝」の題字は娘(当時9歳)が書いてくれました。